

ユーロ圏金融政策（2024年3月）

インフレ見通しを下方修正、6月の利下げ開始を示唆

2024年3月8日

4会合連続で政策金利を据え置くも、引き締め姿勢の巻き戻しを議論

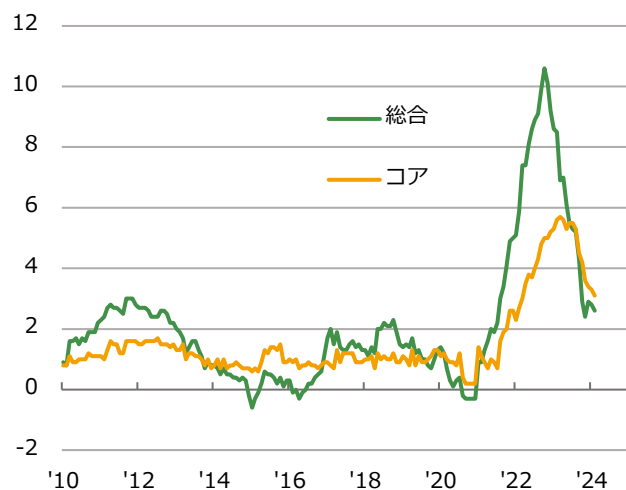
ECB（欧州中央銀行）は3月7日（現地）の理事会で、市場予想通り4会合連続で政策金利の据え置きを決定しました。中銀預金金利（銀行がECBに所要準備を上回って資金を預け入れる際の金利）は4%です。

声明文自体に大きな変化はありません。しかし、インフレ率の最近の低下傾向を踏まえて、ラガルド総裁は、インフレ目標の達成に自信を深めていると述べました。実際、今回公表された四半期に1度の経済見通しでは、インフレ見通しが総じて下方修正され、2025、2026年はそれぞれ総合で2.0%、1.9%、食品・エネルギーを除くベースで2.1%、2.0%と、2025年にはほぼインフレ目標に達するとの想定です。ラガルド総裁は、利下げの議論はしなかったものの、引き締め姿勢の巻き戻しの議論を始めたところとも述べました。唯一懸念を有しているとしたのが賃金と企業収益の動向で、現在見られ始めている賃金の伸び率鈍化が確かなものか、また、企業が収益率の低下で労働コストを吸収している構図が継続するかを注視するとしています。その上で、「十分に」自信を深めるためにはより多くのデータが必要で、得られる追加データは4月だと少しだが6月だと多いとまで発言し、経済が見通し通りに推移した場合、6月に利下げを開始することを示唆しました。当社も引き続き6月の利下げ開始を予想しています。

利下げを見据えたラガルド総裁の発言を受けて、欧州市場は当初金利低下、ユーロ安で反応しましたが、その後、恐らくは他の要因でユーロは対米ドルで上昇しました。一方、株価は終日堅調に推移しました。

ユーロ圏の消費者物価指数

(前年同月比、%) (2010年1月～2024年2月)



※コアは食品・エネルギー・アルコール・タバコを除く系列
(出所) LSEG

ユーロ圏の金利と為替

(%) (2020年初～2024年3月7日) (米ドル/ユーロ)



※中銀預金金利は発表日ベース
(出所) ブルームバーク

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management